

どう進める？ ESDのカリキュラムマネジメント 組み合わせで学び深く 現場に合わせて柔軟に

前田小
新川美紀校長に
聞きました

以前からSDGsに関わる学習を深め、ESD推進拠点とされるユネスコスクールの国内審査を通ったキャンディデート校として、本部による正式加盟を待っている浦添市立前田小学校。県内でも先進的な同校に2021年度に赴任し「最初はどう進めていけばいいかわからず戸惑った」という新川美紀校長に、ESDを進める考え方やコツを話してもらいました。

ユネスコスクールとは？
ユネスコの理念を学校現場で実践するための国際的なネットワーク。文部科学省、日本ユネスコ国内委員会は持続可能な開発のための教育(ESD)の推進拠点として位置付けています。

浦添市立前田小学校
新川美紀校長



原点は学習指導要領

SDGs(持続可能な開発目標)は世界が目指す目標で、ESDはそれを実現するための手段ですが、着任したときにはその違いを説明できる先生もわずかでした。一方、GIGAスクールにコロナ対応と、やらなければならないことは山積みで、多忙な先生たちがこれ以上疲弊するようなこともしたくありません。「一体何から始めたらいいの」という気持ちでした。取り組むことを整理する中で、まずは先生たちの学び直し、捉え直しの機会にしてもらおうと考えました。



ESDに以前から取り組んでいる先生もいれば、馴染みのない先生もいます。まずは全員が不安感なくスタートラインに立てるように、県の総合教育センターから講師を招き、教員間でも経験を伝え合って、ESDについての知識を身につけました。

同時に原点に戻ろうと、学習指導要領を読み込みました。学習指導要領にはESDやSDGs、カリキュラムマネジメント、キャリア教育とあらゆることが書き込まれています。また教科書は学習指導要領に即して作られているので、通常の教育課程にこれらの要素は網羅されています。学習指導要領を「ここはESD、ここはキャリア教育だね」と一つずつ確認しながら「今やっていることに自信を持っていい」「どこから始めても心配ないよ」と先生たちに伝えました。



「マトリックス」と「カレンダー」

前田小では、学校全体と学年ごとの「SDGsマトリックス」、学年ごとの「ESDカレンダー」を作っています。マトリックスは、SDGsの17ゴールのそれぞれに関連する学校行事や教科・単元を書き出します。例えばゴール1「貧困をなくそう」には、児童会の募金活動や、5年生の社会科「日本は世界のどこにある」を当てはめています。カレンダーは、その学年で学ぶ各教科の年間の学習内容を一覧表にしています。これを見ると、ある教科の学習内容が、別の教科のどの内容と関連するか、それはどの時期かが一目でわかります。

私が着任した時にすでに作られたものがありましたが、状況は毎年変わります。その年、その時の子どもや先生方の顔ぶれや状態、その年の行事や使う教科書によって、前年の何を残して何を変えるのかを考え、これらを書き変えていきました。

これを活用して、例えば4年生ではサトウキビ栽培を地域の産業として社会科で、栽培に関わる気象や天気、川の流れるは理科、学んだことの見聞発表は国語と、組み合わせで教科を横断した学びに発展させました。

「SDGsマトリックス」と「ESDカレンダー」は本冊子のP48以降に掲載。「おきなわSDGsのとびら」からダウンロードできます。

みんなの力で未来を変える



SDGsの17ゴールのそれぞれに関連する学校行事や教科・単元を書き出す

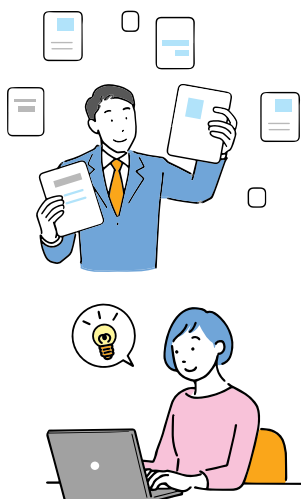
SDGsマトリックス

各教科の年間の学習内容を一覧表に

ESDカレンダー

地域の力を借りて

SDGsやESDは地域と共に取り組むことが大切で、地域には手助けしてくれる人たちがいます。着任2年目はさらに地域との関係性を深めていくために、農業や気象などの専門的な説明や取り組む思いを聞かせてもらったり、見学に出かけたり、一緒に活動しました。発表を見てもらって褒めてもらうといった経験を重ねる中で、子どもたちは地域の人にあいさつをし、草刈りなど地域活動に主体的に関わるようになりました。このような地域との学びが、「持続可能な社会の創り手」としての子ども意識向上やキャリア教育にもつながります。



続けられる方法を

年度末には実際に取り組んだ内容をカレンダーに反映させます。また学年で一つ、単元のまとめを作ってもらい、4月には新しく赴任した先生に伝えます。発表資料は、写真でイメージが伝わるようにして学習内容、成果や課題をスライド8枚にまとめます。やったことをコンパクトにまとめるので、作業の負担も減ります。これらの前年度の資料を元に、新年度はまたその年の子どもや状況に合わせて修正していきます。

すでに多忙な先生たちがこれ以上苦しめないように、続けられる方法を考える必要があります。前の人やがやってくれたことを生かしながら、できないことは思い切って捨て、変更しても問題はありません。短期間にしたり、小単元をつくったりしてもいいのです。先生たちがアイデアを生かし、自分たちで創る楽しさを知って動き出せるよう、サポートしていきたいと考えています。